

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 7年 9月13日
(148号)

中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊幸

祝 人間学塾・中之島 第十四期 開講！



「人物を知る基準」
代表 中川千都子

第十四期人間学塾・中之島へのご入塾、まことに御めでとうございます。

今期新規にご入塾された皆様、前期からご継続された皆様、またお久しぶりに戻ってきてくださった方々、どなたも期待に胸をふくらませておられることと思います。ここから始まる一年間、新たな発見や気づき、魂の出会いの時間となります。まずことを自信を持ってお約束いたします。

さて、毎年入塾に際し、私たちがこうして学び続ける意義をあらためて思います。それは一言で言うならば、どんな人間でありたいかということの求道ではないか。

森信三先生は『修身教授録』において、その人がどんな人物なのかという「人を知る基準」を明確に掲げておられます。

①いかなる人を師匠としているか
②いかなることを人生の目標としているか

③今日までいかなることをしてきたか

④愛読書がいかなるものか

⑤いかなる人を友人とするか

この五つを調べたならば、その人の人間、ひいてはその人の進む道まで見当がつく。そしてこの五つは①の「師を持つ」

という一点に帰するのだと。

師を持てば、自ずと生涯の目標も定まり、日常のなかで迷うこともあれど師の教えに心は定まる。またどんな書物を読むか、どんな友を持つかをも導かれるということでしょう。

いまあらためてこの森先生のお言葉を噛みしめるに、人間学塾・中之島の果たす役割の大きさを思います。

ここは優れた師・志高き友とが深く交流し合う学びの場です。それはどんな人間でありたいか、共に磨き続ける場とも言えます。

当塾は十四期まで続いた伝統ある学び舎・天分塾から引き継ぎ今日までやってまいりました。いよいよ今期は、人間学塾・中之島として天分塾が重ねた年数と並ぶ十四年目を迎えます。いまや「人間学の名門塾」とまで称されるようになりました。これも真摯に学び、日々の実践を続けてこられた、塾生お一人お一人が持ち場持ち場で花を咲かせてこられたからこそ。

この新たな一年もたくさんの花と実りの一年となりますよう、この場に集う皆様とさらなる学びを深めてまいりたいと思います。一年後の花盛りを楽しみに。



「未来の塾を創造する」
副代表 古田修平

第十四期入塾
おめでとうございます。

人間学塾・中之島は、前身である天分塾（十四期で終了）の後、天分塾の願いを「塾是・三大綱領」に込めて創塾し、今期で第十四期を迎えることができました。第八期にはコロナ禍があり、塾の存続も危ぶまれた時期もありましたが、いろいろな困難も乗り越え、天分塾の歴史に並ぶことができました。天分塾を創塾されました、鈴木民二塾頭、西中務副塾頭、寺田一清顧問の三先生方も、宇宙にお帰りになりました。天から人間学塾・中之島の行く末をあたたく見守って頂いていることと思っています。

今、塾は大きく変化しています。特に塾生の皆様の塾への取組み（たとえば、講座への受講の姿勢、グループ討議での積極的な参加、宿泊研修の積極参加等）が塾全体の活動を盛り上げている原動力となつています。この塾が、継続できていることは、塾生の皆様と、世話人の皆様の同じ「想い」を共有できていることの成果だと思っています。

塾の看板である講師の先生方につきましても、常任講師の先生は5名となりました。その他の講師の先生方も、人間学塾・中之島の講座の登壇を楽しみにされています。

「塾生の 塾生による 塾生のための塾」を掲げて、人間学塾・中之島はスタートしました。

唯一無二の「人間学塾・中之島」の未来を、塾生の皆様と世話人の皆様と共に、創造してまいります。



「持続継続の功德」
副代表 松本 学
人間学塾・中之島への「人塾」
誠におめでとうございます。

いよいよ前身の天分塾に並ぶ第十四期をむかえ、森信三先生、そしてその教学を繋いでくださった寺田一清先生はじめ、多くの先生方の大恩に対する畏敬と感謝の念に堪えません。

天分塾第十四期の入塾式に際して「天分塾ニュース」に寄せられた寺田一清先生の思いを読み返しますと、鍵山秀三郎先生から授かった「人間は時間の洗礼を受けねばならぬ」についてご紹介、「すべてにおいて持続継続の功德を、言葉をかえてお解きくだされたものと思われまう」と解説されています。

二〇二五年は、森信三先生が生前に予言された、世界が日本の底力を認めざるをえなくなる二〇五〇年に向けて再び立ち上がる兆しを見せる大事なスタート地点です。学びに触れた、ご縁ある一人ひとりが持続継続の功德を積み、先師や諸先輩方が命をかけて繋いでくださった『念』をしつかりと繋いでいこうではありませんか。一人ひとりの歩みは僅かで儻々でも、大いなる時の流れの中で、ある時は地下水のように沈潜して強く繋がりを、ある時は大河のようなうねりとなって、世界の手本となる日本を創り上げていきましょう。

継続受講される皆様のお一人おひとりの思いを、第十三期卒業文集で拝読させていただき、「ああ 中之島」に籠められた寺田一清先生の願いが共有されていることを大変嬉しく、心強く感じました。新規受講される皆様には新しい道友として、また、ご復帰される皆様には久しぶりの再会を喜びつつ、共に手をとって心願達成に向けて歩ませていただけることを心から楽しみにしております。

腰骨を立てて、共に学び、それぞれの実践に一心不乱に打ちこんでまいりましょう。

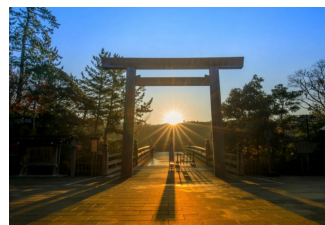
第十四期 宿泊研修と記念イベントのご案内

第十四期の宿泊研修と記念イベントのご案内です。年間のスケジュールの中にご予定ください。

◆宿泊研修

秋季宿泊研修 令和7年11月15日(土)～16日(日)

会場 三重県 伊勢修養園



主なスケジュール

一日目

午後 武田数宏先生の講座

夜 禊ぎ(五十鈴川)

二日目

朝 伊勢神宮正式参拝

午前 山崎政弘先生の講座

春季宿泊研修 令和8年4月11日(土)～12日(日)

会場 愛媛県 奥道後「壱湯の守」

主なスケジュール

一日目

午後 白駒妃登美先生の講座

夜 交流会

二日目

「先人に学ぶ」

坂村真民記念館等



「天分塾第十四期 人間学塾・中之島第十四期」を祝うイベント

日時 令和7年12月20日(土)

会場 大阪大学中之島センター10階佐治敬三ホール

参加予定者

人間学塾・中之島塾生、卒業生、天分塾卒業生

第十四期世話人体制

第十四期の世話人につきましては、次のとおりです。何卒よろしくお願いいたします。ご相談等、お気軽にお声がけください。

()は主な役割分担

代表 中川 千都子

副代表 古田 修平(事務局)

松本 学(会計)

世話人 加藤 昌夫(撮影)

近藤 宏枝(読書会)

西村 俊幸(編集)

福本 浩之(運営)

柴原 啓司(会計)

嶋田 泉(運営)

石黒 尚(総務)

顧問 清水 正博

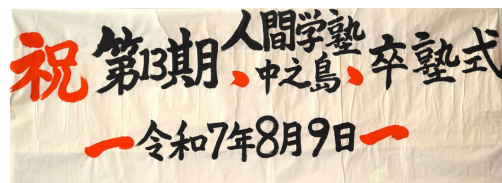
細川 三郎



塾生募集中

途中入塾も受け付けています。気になるあの方に、この学び舎をご紹介します。

祝 第13期 人間学塾・中之島 門出の日



揮毫／近藤宏枝世話人

令和7年8月9日(土) 第13期人間学塾・中之島卒塾式が執り行われました。その後の懇親会も盛会となりました。



卒塾証書の授与



精勤賞の皆様



皆勤賞の皆様



皆勤賞 精勤賞 おめでとうございます

塾生代表スピーチありがとうございます
吉持豪人塾生・上田賀代塾生・葛西友子塾生

懇親会ありがとうございました
素敵な演奏など感動・感謝！



寺田一清先生に導かれて 近藤宏枝 ③②

「時を守り、場を清め、礼を正す」こと

森信三先生の教えに、次のような一文があります。「たしなみとは、真に身についた教養ということです。たとえば、いわゆる学歴の上ではBの方が上でも、もしたしなみという点に欠けていたとしたら、周囲の人びとは、たしなみの点ですぐれているAのほうに敬意を抱くはずですよ。そしてたしなみはそれぞれその人のからだに根ざすものですから、いざという場合、にわか細工が利かないのです。」さて先日、ある研修会に参加した時の事です。女性の講師の先生が、ひざ丈までの体にフィットした細身の黒いパンツに素足にサンダル履きでご登壇されたのです。お話は素晴らしいものでありましたが、そのお姿を鑑みますとどうしても内容が半減されるのでした。

また円覚寺の横田南嶺管長様が配信なされている「管長日記」を拝聴致しました時に、次の様なお話をされていました。「私などはやはり『臨濟録』を拝読するとなると、正装をするものです。白衣を着て、法衣を着て講本を開きます。その折に申し上げたのですが、禪というところ、いかにもおおらかな精神の自由を謳歌する一面があり、それと同時に、行儀作法をゆるがせにしない綿密さの両方を兼ね具えています。（中略）おおらかな自由さだけでは、千数百年の歴史を刻むことは出来なかつたと思います。」近年は様々なことが「略式化」されることによつて、本来の姿がなおざりにされてきたのではないのでしょうか。そして「コロナ禍」という非常事態で加速され、不要不急の外出を控えるようになり、部屋着と外出着の線引きが曖昧になつた弊害ではないかと思えてなりません。

森先生の提唱された「時を守り、場を清め、礼を正す」の教えのどこまでも深い意味をいま一度心に刻んで、その場や人や物に対して敬意を表するということとは、身心全てをもつて接することなのだと、改めて自分の日常のあり方を反省した次第であります。

次月案内

第十四期 第一講

◇日時 令和7年10月11日（土）
午後1時～

◇場所 大阪大学中之島センタ―
10階 ホール 34

◇講師 浅井周英先生

◆テーマ「道縁に導かれて」



小中学校の教員の後、和歌山市教育長や助役を務められ、「実践人の家」理事長としても活躍されました。また、教円幼稚園の園長としても、立腰教育を実践されています。

人間学塾・中之島

グループラインのご案内

塾生の方用に、LINEを運用しています。

(講座案内・出欠確認等の連絡用)

※未登録の方は世話人まで
グループラインにご招待させて
いただきます。

なお、個人的な投稿や早朝・深夜の投稿などはお控えください。

お願い

① 中之島ニュースは塾生・登録塾生の方用に作成しております。
事務局・編集部が無断で転載や特にコピーなどを配布することは、ご遠慮ください。

よろしくお願いします。

② 編集部アドレスは下記のとおりです。

事務局とは異なります。

感想文・文集・投稿等はこちらに↓
お願いします。

2012nakanoshima@gmail.com

編集後記

第十四期ご入塾。誠におめでとうございます。継続して入塾された方、また今期から入塾された方！ようこそ人間学塾・中之島へ。一年間何卒よろしくお願いいたします。素晴らしい講師の方、そして塾生の皆様との出逢いにドキドキ・そしてわくわくです。

第十三期卒業式も感動と感謝でした。外は相変わらずの猛暑でしたが、卒業式はそれ以上に熱いものでした。今年の卒業記念品はステンレスボトル。森信三先生のお言葉「一つ一つの小石をつんで」を記しています。ひとつひとつコツコツと学んでまいりましょう。

さて、今期も編集をさせていただくことになりました。このニュースを皆様方と一緒に作ってまいりたいと存じます。皆様のご協力をどうぞよろしく願います。

編集長 西村俊幸